

# 伊予農高 同窓会報

## 卒業生の皆様へ

同窓会長 甘井 清久



こんにちは。愛媛県立伊予農業高等学校同窓会長の甘井清久です。まずは、2025年3月に卒業を迎えられる皆様にお祝い申し上げます。この素晴らしい節目を迎えるにあたり、私たち同窓会としても、皆様に一言お祝いとエールを送る機会をいただけることを嬉しく思います。

伊予農業高等学校で過ごした日々は、皆様にとってかけがえのない時間だったことと思います。多くの挑戦と成長を経験し、時にはつらいことや苦しいこともあったでしょう。しかし、

〈発行者〉

伊予農業高等学校 同窓会事務局

〒799-3111 伊予市下吾川1433  
TEL 089-982-1225  
FAX 089-983-4177

人生において必ずや大きな力となることでしょう。

それらのすべてが皆様の今の自分へと導き、確かな一歩を踏み出す力となったはずです。本校は、農業や自然環境に関する知識と技術を学ぶ場所であるとともに、地域社会と深い結びつきを持つ学校です。そのため、学んだことを実際に生かせる場が数多くありました。地域の農業や食文化を支える役割を担い、地元の方々の交流を通じて、私たちは「人とのつながり」や「支え合い」の大切さを学びました。また、さまざまな実習や体験を通して得た技術は、皆様のこれからの

力となることでしょう。さて、皆様が卒業後に進む道はそれぞれ異なることでは。農業に進む方もいれば、異業種に挑戦する方もいるかもしれません。どんな道を選ぶにしても、伊予農業高校で学んだ「根気強さ」「協力の大切さ」「地域社会への貢献」といった精神は、どの分野においても必ず役立つものだと思います。卒業後、社会に出て様々な困難に直面することもあるでしょう。しかし、そのたびに「伊予農」での経験を思い出し、何度でも立ち上がり、前に進んでいけるはずですよ。私たちは常に応援しています。困った

ときには、同窓会という大きな支えがあることを忘れずにいてください。伊予農業高校の卒業生として、皆様が同窓会という大きな家族の一員です。私たちは、卒業生同士が繋がりに、互いに助け合い、支え合うことを大切にしています。同窓会は、皆様が何年、何十年と経った後も母校と繋がりをもち続けるための場所です。仕事の悩みや人生の選択に迷ったとき、同窓生同士で助け合い、励まし合うことができるのは、何にも代えがたい財産です。また、毎年開催される同窓会イベントや、地域で行われるボランティア活動に参加することも、母校への貢献につながります。皆様の活躍が、後輩たちにとっても大きな励みとなり、さらなる成長を促すことになるでしょう。どうか、今後も母校に対する愛情と誇りを持ち続けてください。最後に、卒業生の皆様に

贈りたい言葉があります。それは「未来は自分の手の中にある」ということです。これからの人生で、どんな壁にぶつかっても、その壁を乗り越える力は、皆様自身の中に備わっていると私は信じています。過去に学んだこと、経験したことを力にして、未来を切り拓いていってください。これからも皆様が素晴らしい人生を送ることを心より願っております。どんなに遠くに行っても、どんなに時間が経っても、伊予農業高等学校は皆様の母校であり、私たちはその一員です。どうか自信を持って、自分らしい人生を歩んでいってください。また、いつでも母校に帰ってきてください。そして、同窓会でお会いできることを楽しみにしています。卒業生の皆様の未来に幸多かれと祈りつつ、同窓会長としてのご挨拶とさせていただきます。



## 御挨拶

校長 福岡恵里子

伊予農業高校同窓会の皆様におかれましては、益々御健勝にて御活躍されておりますこと、心からお慶び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動に御支援と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

また学校の魅力化推進のため90名あまりの教職員と力を合わせて取り組んでおります。本校生徒は約半分が松山市内、約半分が伊予市・伊予郡から通学しておりますが、日々の活動を通じて友情を深めながら、共に「伊予農生」として成長してくれています。6学科の学習内容は多岐に渡り、それぞれ違いはありますが、地域の様々な方々との交流を通して地元のために自分達が生かす役割に立っている

喜びを感じてくれていると思います。その様子は学校ホームページの「伊予農日記」に6学科とも多数掲載しておりますので、ぜひご覧ください。さらに今年度も多くの大会に生徒が出場し輝かしい成績を残してくれました。まず、日本農業クラブ全国大会農業鑑定競技優秀、プロジェクト発表会出場、第2回石積み甲子園2連覇、全国高校生パンコンテストでは最優秀にあたる農林水産大臣賞を獲得しました。その他にも様々な会に積極的に参加し、伊予農業高校の名前を多くの人に知って

もらえるように頑張りました。部活動においてもライフル射撃部が大分で行われた国民スポーツ大会においてチームピストル少年女子の部で準優勝を果たし、卓球部女子も四国卓球選手権に出場を果たしました。その他にも長年伊予農が事務局を務めている国際教育研究協議会においては研究発表と意見発表で四国大会出場を果たすなど文化部も活躍しました。

今年の夏は本当に長く暑いものでしたが、その厳しい環境をもとめせず、運動会では生徒たちが盛り上げてくれました。同様に農業祭でも、たくさんの方々に自分達が作った野菜、草花加工品を元気に販売することができ、地域の方々や保護者の皆様にも少しは恩返しできたのではと感じてくれていると思います。今後とも生徒一人一人が輝ける学校、これまで以上に地域の方々に愛される学校を目指して日々努力し、素敵な話題を数多く御提供してまいります。同窓会のご支援を賜り、引き続き御指導・御支援を賜り、温かく見守っていただき、ありがとうございます。今後ともよろしくお祈りいたします。

## 令和6年度同窓会総会

令和6年8月4日(日)、ウエルピア伊予において令和6年度同窓会総会が開催されました。

甘井同窓会長・福岡校長の挨拶に続いて議事に入り、令和5年度事業報告・会計決算報告・監査報告、令和6年度事業計画・予算案審議を行いました。令和6年度事業計画では、台湾の新社高級中学校(本校の創立百周年を記念して姉妹校提



同窓会総会の様子

携を締結)との交流事業について、同窓会による部活動補助事業(レンタカー代金の補助)等について報告されました。総会後の懇親会では、転入教職員の紹介が行われ、久しぶりの顔ぶれに話が弾み、令和6年度同窓会総会を終えることができました。



甘井同窓会長挨拶

## 令和6年度農業祭

開催概要  
令和6年11月9日(土)に「農でつながる地域の輪」今始まる新しい農業 未来へつなぐ宝物」のテーマのもと、農業祭が開催されました。

学農連盟  
農業を営む同窓生等が、生産した農産物を販売しました。



学農連の農産物販売

校史展  
校史展では、同窓会の教員を中心に過去の同窓会報や卒業アルバム、写真等を展示。在学生の姿がみられました。

園芸流通科の諸活動

園芸流通科は、「高校卒業後、地域社会に貢献できる人材の育成」を目標に掲げており、「実習五訓を実践し、労をいとわず、人のために汗を流せる人材の育成」をモットーに、草花・野菜・果樹の生産だけでなく、農産物の流通・販売まで学ぶことができ

る学科です。それらの学習をおして、農業の知識や技術の習得はもちろぬのこと、責任感や協調性、積極性など、将来、社会に出て働くために必要な力(社会人基礎力)を身に付けることができ

○主な学習内容

草花では、カーネーション・シクラメンなどの鉢花や、マリゴールド・パンジーなどの花苗の栽培、野菜ではトマト・メロン・キュウリ・ダイコンなどの栽培、果樹ではミカンを中心とした様々なカキツ類やブドウ・モモなどの栽培を自分たちの手で行うなど、農業の基礎・基本を学んでいます。



流通専攻生によるいきいき市

また、育てた農産物は、校内の販売所「いきいき市」や移動販売等で学校の先生方や

生徒、地域の方に直接販売を行っています。そのため、販売するために必要な簿記やマーケティング、ディスプレイ、パッケージデザイン、広告作り等の内容も学習します。

○地域との積極的な交流活動を展開

本学科では、昨年度より、学科の特色を生かし、地域の園児等と栽培や収穫の交流(食育・花育活動)を積極的に行っています。



園児との野菜苗植え交流

今年度は、園児と野菜苗や花苗と一緒に植える活動を行ったり、ミカンの収穫交流を実施したりしました。また、草花班では「ロスフラワーの啓発」をテーマに、あらゆる年代を対象にロスフラワーを用いたコサージュやストラップ等の製作体験を行っています。このように、私たちは普段の学習内容をあらゆる年代の人たちに披露をすることで、学習内容を深化させるとともに交流相手に農業の面白さを伝えることができ

ます。また、生徒が異世代との交流をとおして、学校だけでは学ぶことができない様々な学びや気づきを得ることができ、大きな成長にもつながっています。



スマート農業現場見学



愛媛FCイベント参加(花ストラップ製作)

○先進農家、現場見学の充実 最新の農業や流通の現場等について学ぶために、先進農家や農産物の流通現場、研究センター等の見学を行っています。1年生の進路探求「職場見学」の他にも、今年度は、1年生で松山市中央卸売市場、2年生で松山市中央卸売市場、さいさいきて屋、農業大学校、農林水産研究センターの見学を実施しました。学習内容に関連している現場を見学することで、教室だけでは学ぶことができない多くの知識を身に付けることもできます。また、これらの見学をおして、生徒の進路意識も高めることにつながっています。

生活科学科の諸活動

生活科学科では、農業科目と家庭科目を中心に体験的に幅広く学習し、生活を楽しみ心豊かに生きていく力を身に付けるとともに、地域社会に役立つ人材の育成を目標に授業や実習、検定に取り組んでいます。

○農業実習

農業実習では、野菜や草花を栽培しています。野菜栽培では、育てることの難しさ、収穫まで観察しながら待ち耐える心、野菜の収穫した喜びや満足感、新鮮な野菜を家に持ち帰り料理する楽しさを体験することができ



農業科目「生物活用」野菜栽培

ます。草花栽培では、花を育てる中で日々の成長を感じ、花を咲かせた喜びを味わうことができ

ます。野菜や草花の栽培を体験する中で、農業のよき理解者となることを目指しています。

○家庭科実習

調理実習、被服製作実習、保育に関する実習(着替え、おむつ交換、けがの手当て、紙芝居や絵本の読み聞かせ、壁面構成製作、布おもちゃ製作など)、住生活デザイン実習(表札、リース飾り、リビング小物製作など)、校外学習(保育所・高齢者施設訪問)など愛媛県下有数の家庭科実習が多い学科です。楽しく生活に生かせる体験をすることが、生徒の将来の生きる力につながっており、実習を通して段取り力や相手を思いやる心も育っています。



家庭科目「保育実践」保育所訪問

○資格取得 家庭科技術検定を中心に多くの検定取得ができます。1年次には、基本の技術習得を目標に、被服製作技術検定4・3級、食物調理技術検定4・3級を取得します。2年

次以降では、応用力の育成として、食物調理技術検定2・1級、被服製作技術検定2・1級(和服・洋服)を取得することができ



家庭科目「フードデザイン」調理実習



自分で製作した浴衣を着付け講習会

# 在校生の活躍

## サンフェアとちぎに出場して

環境開発科3年 小倉 帆花

鑑定競技の全国大会を終え、東京から向かったのはフラワードesignの全国大会が開催される栃木県でした。大会前日に、会場に荷物が届いているか、足りないものはないかなど、当日に向けての準備をしました。余裕をもって準備をすることができたので、会場周辺を散策することもできました。

大会当日は、会場前でもう一人の愛媛県代表の選手と合流して会場入りしました。開会式典も実施され、大会に向けての雰囲気が高まりました。競技を行う会場へ移動しましたが、学校の体育館よりも広い部屋で、大勢の選手が集まっています。そして、いよいよ本番が始まりました。本番で使用した花材は、練習で使用していたものよりボリュームダウンしており、少し戸惑ってしまいました。それでも、練習してきたことを思い出し、いつもと同じように花材を挿すことができたと思います。悔しいことですが、私の作品は入賞することはできませんでしたが、けれど、あんなにも大きな会場で、多くの高校生と花を通して競い合えたことは、今後の人生でもうないことだと断言できます。その後の就職活動でも、この競技を話題にすることができるようになりました。何事も真剣にやってみるこの大切さを知ることができました。

## 各種発表全国大会に出場して

生活科学科 3年 食物班

私たち生活科学科食物班8名は、「#伊予農福連携 Challenge」『産学官金』共助による地域振興」というテーマで、プロジェクト活動を行い、校内大会、県大会、四国大会を勝ち抜き、全国大会に出場することができました。県大会、四国大会の成績発表で、「プロジェクト発表分野Ⅲ類最優秀 伊予農業高等学校」と発表されたときは、感動しました。全国大会では、私は質疑応答を担当しました。緊張しましたが、笑顔で答えることができましたのでよかったです。入賞はできませんでしたが、私たちの持っている力をすべて発揮できたと思っています。

私は、6月の校内大会、7月の県大会、8月の四国大会に発表者として出場し、全国大会に勝ち進むことができました。念願の全国大会では、会場の雰囲気と他プロジェクトの発表に圧倒され、「全国大会なんだな」と実感しました。しかし、発表はとても楽しく、プロジェクトメンバー全員最高の笑顔で発表することができ、練習の成果を発揮することができました。

私は発表者を務めました。6月の校内大会の前からたくさん練習をし、県大会からは原稿を覚えて発表できるようにになりました。私にとって初めての全国大会だったので、とても緊張しましたが、発表が始まると、とても楽しく、リラックスして発表を終えることができました。ノーマスで発表することができ、うれしかったので。また、他プロジェクトの発表を聞くことができ、勉強になりました。初めての全国大会が「農業クラブ」でよかったです！

私も楽しく、リラックスして発表を終えることができました。ノーマスで発表することができ、うれしかったので。また、他プロジェクトの発表を聞くことができ、勉強になりました。初めての全国大会が「農業クラブ」でよかったです！

私はPC操作を担当しました。発表者に合わせてスライドの切り替えができるよう、練習して大会に臨みました。大会では、毎回初めて行く会場で、しかもパソコンを持って待機する時間が長く、プロジェクトにきちんと動いてくれるのか心配になります。しかし、スムーズに接続することができ、ミスなく発表することができたのでよかったです。プロジェクト活動を通して、先生やプロジェクトメンバー、連携している地域や企業の方との絆も深まり、多くのことを学ぶことができました。

私は演説を担当しました。初めての全国大会はとても緊張しました。練習では、失敗することもたくさんありましたが、その都度、ミーティングを行い、発表をブラッシュアップしていったので、全国大会まで勝ち進めたのだと思っています。残念ながら、入賞はできませんでしたが、悔いがない発表ができました。連携してくださっている地域や企業の方々に感謝の気持ちを伝えたいです。

私は演説を担当しました。5月から、プロジェクト活動をまとめ、県大会、四国大会、全国大会と勝ち進むたびに、発表内容をパワーアップさせていきました。全国大会では、岩手県の運営校の皆さんも緊張されておられ、私たちの発表のために、1年以上かけて準備してくださっているのを感じ、たいへんありがたかったです。スムーズに運営してくださったおかげで、私たちも安心して発表することができました。思い出に残るあたたかい全国大会でした。

## 「日本一への挑戦」

食品科学科3年 谷川 萌々果

「全国高校生パンコンテスト」。このコンテストの名前を、私は伊予農業高校に入学前から知っていました。それは、このコンテストで伊予農業高校の先輩方がたくさん活躍しているのを見て、私自身も挑戦したいと思い応募しました。家でも練習し、書類審査を通過したと先生から言われた時はとても嬉しかったです。それから何度も練習に励みました。作ったパンは二百個以上、スムーズに作業を行えるよう、試行錯誤を繰り返しながら頑張りました。

最後の練習が終わり、先生や友人からの励ましの言葉を胸に、大会が開催される静岡県に向かいました。初日は実技審査です。初めての場所、何人もの審査員の方々、なんとも言えない緊張感の中、実技審査がスタートしました。これまでの練習を思い出しながら、「私ならできる!!!」と言い聞かせ、実技審査に挑みました。時間が進むにつれて緊張も薄れていき、いつものように作業することができました。2日目はプレゼンテーションです。聞いた人が食べてみたいと思うよう、堂々と発表することができ、

満足のいくプレゼンテーションになりました。そして、いよいよ表彰式の時間となりました。次々と入賞者が発表される中、私の名前はまだ呼ばれません。もうダメかなと諦めかけたその時、最後の最優秀賞の発表で私の名前が呼ばれ、驚きと喜びで、思わず涙が溢れました。これまでの成果が最優秀賞という最高の形となり、心から嬉しかったです。私はこのコンテストを通して多くのことを学び、大きく成長することができました。最後まで御指導してくださった先生方、試食したくさんのアドバイスをくれた先生方や家族、友人に改めて感謝の気持ちを伝えたいです。



